



足利の山なみと中橋

足利市
市制100周年記念誌

■ もくじ

- 1 ■ 市の概要
- 2-3 ■ 市民憲章・市章・市歌
- 4-5 ■ 市制100周年記念誌発行によせて
- 6-8 ■ 姉妹都市・友好都市からのメッセージ
- 10-11 ■ 市制100周年記念事業
- 12-89 ■ 足利市の歴史
- 90-91 ■ 歴代市長・助役(副市長)・収入役・名誉市民
- 92-97 ■ 歴代議長・副議長・市議会議員
- 98-104 ■ 足利市の四季・数字で見る足利市

市の概要

足利市は、大正10年1月1日に市制を施行し、足利町から足利市となりました。当時の人口は、35,632人でした。その後、昭和26年の毛野村合併を嚆矢に昭和28年に山辺町、昭和29年に三重村、山前村、北郷村、名草村、昭和34年に富田村、昭和35年に矢場川村、昭和37年に御厨町、坂西町を合併し、現在の市域を形成しています。市制100年を迎えた令和3年1月1日の人口は、144,488人です。

本市は栃木県の南西部に位置し、東京から北へ80キロメートルの距離にあります。北には緑なす足尾山地の山並みがあり、東西に渡良瀬川が流れ、南には関東平野がひらけています。史跡足利学校や鏝阿寺などの歴史的遺産も多く、『歴史と文化のまち』として知られています。

本市では、昔から織物業が栄え、奈良時代には『かもしかおり』が朝廷に献上されたと伝えられています。戦前は足利銘仙の生産、戦後はトリコットの生産が盛んでした。近年ではアルミや機械金属、プラスチック製品の製造など様々な分野の工業が伸展し、総合的な商工業都市へと変貌を遂げております。また、雇用の創出を促進するため、産業団地の造成にも力を入れています。農業分野では米麦のほか、トマトやいちご、アスパラガス、トルコギキョウなどの生産が盛んです。

交通網では、近年は平成23年に北関東自動車道足利インターが開通し、平成30年にはJR 両毛線にあしかがフラワーパーク駅が開業しました。

市街地整備では、快適で住みよい基盤整備を推進しています。史跡足利学校・鏝阿寺周辺などは歴史的景観形成拠点と位置づけ、足利らしい魅力ある街づくりを進めているほか、渡良瀬川河川敷を利用し、市民の憩いの場としての水辺の空間の創出と健康的な生活を送るための公園整備を進めています。

市有施設においては、昭和40年代、50年代にかけて建設されたものが多く、一斉に更新時期を迎えたため、持続可能な財政運営に向けて『大型公共施設更新に向けた財政指針』を平成31年1月に発表し、徹底した行政改革による歳入の確保と歳出の縮減に努めています。

高齢化率がすでに30%を超えている本市においては、市民一人ひとりが生涯を通じて心身共に健康で暮らせるよう、健康寿命の延伸を目指しています。

足利学校を有する本市は、古くから自学自習の精神が根付いています。『足利市の教育目標』が市民約1万人の参加のもと、昭和56年に作られました。21世紀を見据え、生涯学習の視点に立って作られたこの目標は、先導的な取り組みとして高く評価されました。こうした教育目標のもと、平成18年に新たに開設された生涯学習センターを中心に市内各地で生涯学習が盛んに行われています。

令和4年度からは、これからの100年の礎となる新たなまちづくりの指針、第8次足利市総合計画がスタートします。市民が誇りを持って郷土を愛し、希望に満ちた未来を描けるよう、常に挑戦し続けるまちを目指します。